

日本版社会恐怖尺度 (SPS)、 日本版社会的相互作用不安尺度 (SIAS) の開発

原井宏明¹⁾、毛利伊吹²⁾、山口日出彦¹⁾、下原宣彦¹⁾

1) 国立療養所菊地病院、2) 東京大学大学院総合文化研究科

社会恐怖 (社会不安障害) とは、「よく知らない人達の前で他人の注視を浴びるかもしれない社会的状況または行為するという状況の一つまたはそれ以上に対する顕著で持続的な恐怖」であるとされている (APA, 1994)。DSM に社会恐怖の診断基準が登場したのは DSM-III (APA, 1980) が最初であるが、その時は比較的まれな疾患であり、日本特有の文化依存症候群と考えられていた。しかし、DSM-IV (APA, 1994) では社会恐怖の生涯有病率が3%から13%と記載されるなど、米国でも対人状況への恐れを中核とする疾患が珍しくはないという事が明らかとなり、この領域における研究は増加してきた。それに伴い社会恐怖や社会不安の新しい尺度もいくつか登場している。その中に Social Phobia Scale (SPS; Mattick & Clarke, 1998) と Social Interaction Anxiety Scale (SIAS; Mattick & Clarke, 1998) という一組の自己記入式尺度がある。これらは社会恐怖の2つの特徴、「他者から見られることへの恐れ」と「より一般的な社会的相互作用での不安」をそれぞれ測定する目的で開発された。十分な信頼性や妥当性を有し、臨床群でのデータもそろっており (Mattick & Clarke, 1998)、研究や臨床場面での使用に適した尺度であると考えられる。本研究では、日本版 SPS と日本版 SIAS の開発を目的として、その信頼性と妥当性の検討を行った。

方法

調査協力者

大学生群: 237名 (男181名, 女56名; 平均年齢19.0歳, SD1.14) が SPS ならびに SIAS に対して回答した。

なお、併存的妥当性を検討するために239名中194名 (男147名, 女47名; 平均年齢19.0歳, SD1.14) は、対人相互作用不安尺度と聴衆不安尺度についても回答した。

臨床群: 外来を受診した社会恐怖患者21名 (男性16名, 女性5名; 平均年齢38.7歳, SD11.1)

社会恐怖の診断には、精神疾患簡易構造化面接法 (Sheehan & Lecrubier) を用いた。社会恐怖以外の診

断基準 (「大うつ病エピソード」「自殺の危険」など) を満たした患者は14名であった。

質問紙

SPSおよびSIAS: SPSは20項目、SIASは19項目からなっている。回答方式はいずれも5件法であった (「自分の性格や自分についての事実を全く表していない」を0、「自分の性格や自分についての事実を大変よく表している」を4とした)。SPSとSIASの和訳は Kleinknecht ら (1997) によるものを用いた。和訳の使用に当たっては著者より許可を得た。また、SPSとSIASの使用については原書者 (Mattick) より許可を得ている。

対人不安尺度: 併存的妥当性を検討するため、既存の対人不安尺度として以下の4つを用いた。

1. 対人相互作用不安尺度 (IAS)、2. 聴衆不安尺度 (AAS) (いずれも Leary (1983)、訳は岡林・生和 (1991) による)、
3. 日本版 Social Avoidance Distress Scale (SADS)、4. 日本版 Fear of Negative Evaluation Scale (FNE) (いずれも、石川・佐々木・福井 (1992))

結果と考察

1. 信頼性の検討

大学生群 (N=237) において項目-全体相関を求めたところ、SPSでは.51-.71、SIASでは.38-.76の値を示していた。そこで全項目を用いて Cronbach の α 係数を求めたところ、SPS、SIASともに.93と十分な値を示した。

2. 妥当性の検討

SIASならびにSPSは大学生群においても、臨床群においても既存の対人不安尺度との間に中程度の相関が見られた (表1、表2)。この結果は Mattick & Clark (1998) の結果と一致している。今回の結果より、SPSとSIASが対人不安尺度としての妥当性を備えていることが示された。なお、SPSとSIASとの間には大学生群では.79、臨床群では.69という比較的高い値の相関係数が得られ

ている。Mattick & Clark(1998)の報告においても、臨床群で.72となっており、「他者から見られることへの恐れ」と「より一般的な社会的相互作用での不安」は高率で並存しているという観察 (e.g. Turner et al., 1986) に合致すると考えられている。

表1. 大学生群における尺度間の相関係数 (N=194)

	SIAS	IAS	AAS
SPS	.79***	.58***	.54***
SIAS	-	.73***	.64***

***P<.001

表2. 臨床群における尺度間の相関係数 (括弧内はN)

	SIAS	SAD	FNE
SPS	.69*** ¹⁾	.53* ²⁾	.69** ²⁾
SIAS	-	.71*** ¹⁾	.63** ¹⁾

1) N=19, 2) N=18, *P<.05, **P<.01, ***P<.001

3. 臨床的妥当性の検討

SPS 得点と SIAS 得点のそれぞれに関し、大学生群と臨床群における平均得点の差について T 検定を行った。その結果、SPS 得点、SIAS 得点ともに、臨床群の方が有意に高く (p<.0001)、これらの尺度は臨床的弁別性を備えていると考えられた。

なお、SPS 得点 SIAS 得点ともに、大学生群、臨床群のいずれにおいても男女で有意な差は認められなかった (p>.1)。

表3. SPS と SIAS の平均得点 (括弧内は標準偏差)

	大学生群		臨床群		t 値
SPS	17.4	(13.2)	38.1	(18.0)	4.88***
SIAS	29.4	(14.4)	46.0 ³⁾	(12.4)	5.13***

3) N=19

総合考察

SPS と SIAS は信頼性ならびに妥当性を備えた尺度であることが本研究により示された。今後は臨床データを積み重ね、治療への感受性などを検討していくことも重要であろう。

SIAS と SPS の項目をまとめて確認的因子分析を行うと、SIAS と SPS がそれぞれ別の因子を形成するという2因子モデルにはデータの当てはまりが悪く、探索的因子

分析を行うと3因子となり、SIAS はその大部分の項目が第1因子に属したが、SPS はその多くが第2因子と第3因子に分かれて属することが報告されている (Safren, 1998)。日本版 SPS と SIAS の因子構造については現在検討をすすめている。

両尺度は海外において、診断や治療効果の測定といった臨床的な場面での使用だけでなく、研究場面でも多く用いられている。今後はこれまでスタンダードとして用いられてきた SAD や FNE といった尺度に相当するような位置付けとなっていくのかもしれない。

引用文献

- American Psychiatric Association 1980 *Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Third Edition.* Washington, D. C. : American Psychiatric Association.
- American Psychiatric Association 1994 *Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Fourth Edition.* Washington, D. C. : American Psychiatric Association.
- 石川利江、佐々木和義、福井至 1992 社会的不安尺度 FNE・SADS の日本語版標準化の試み. 行動療法研究 18, 10-17.
- Leary, M. R. 1983. Social anxiousness: the construct and its measurement. *Journal of Personality Assessment* 47, 66-75.
- Mattick, R. P. & Clark, J. C. 1998 Development and validation of measures of social phobia scrutiny fear and social interaction anxiety. *Behaviour Research and Therapy* 36, 455-470.
- 岡林尚子, 生和秀敏 1991 対人不安感尺度の信頼性と妥当性に関する一研究 広島大学総合科学部紀要III 情報行動科学研究 15, 1-10.
- Sheehan D, & Lecrubier Y: MINI Mini-International Neuropsychiatric Interview. (大坪天平、宮岡等、上島国利 (訳) 2000 精神疾患簡易構造化面接法. 星和書店)
- Turner, S. M., Beidel, D. C., Dancu, C. V., & Keys, D. J. 1986 Psychopathology of social phobia: A comparison to avoidant personality disorder. *Journal of Abnormal Psychology*, 95,389-394.